

- 細菌が、枝、新梢、葉、花蕾に感染して発生するキウイフルーツの病気。
- 日本国内では既にPsa1系統が発生していたが、平成26年に新たにPsa3系統の発生を確認。
- 既発生国ではPsa3系統は病原性が強い系統とされているが、Psa1系統との感染力の差等については現時点では明確な知見はない。

## 【系統及び発生状況】

- 1 病原菌 *Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae*, Psa(細菌)
- 2 本病原菌は、病原性の異なる5系統が存在し、各国での発生が見られている。  
Psa1系統 日本、イタリア  
Psa2系統 韓国  
Psa3系統 中国、イタリア、フランス、ポルトガル、ニュージーランド、チリ、スペイン、スイス、韓国、日本、スロベニア、ギリシャ  
Psa4系統(※) オーストラリア、ニュージーランド、フランス  
Psa5系統 日本  
(※Psa4系統は異なるpathovarとして、新たにpv. *actinidifoliorum*と命名する報告がある。)
- 3 日本では、昭和59年に静岡県でPsa1系統の発生を確認。Psa3系統はこれまでに13都県で発生したと公表(平成27年12月25日現在)。

## 【特徴】

(Psa1～4に共通)

- 1 本病は、風雨や作業器具、接ぎ木等で伝染すると報告されている。
- 2 生育に好適な温度は10～20℃程度であり、32℃以上の高温で多くの菌が死滅すると報告されている。
- 3 剪定作業や風雨などにより葉や枝の傷口等から細菌が浸出し、葉の褐色斑点(写真1)、新梢の萎れ、枝幹部からの菌液や樹液の漏出(写真2)などの被害が生じる。
- 4 果実を食べても、人への影響はない。

(Psa3系統)

既発生国では病原性が強い系統とされ、緑色果実品種より黄色果実品種に被害が大きく、適切な防除を講じないと樹木が枯死する場合がありますと報告されている。他のPsa系統同様に、葉の褐色斑点(写真3)、新梢の萎れ、枝幹部の菌液や樹液の漏出などの被害が生じる。

## 【これまでの日本におけるPsa1系統の防除方法】

- 1 感染した枝や葉は本病の伝染源となるため除去し、埋却又は焼却処分。また、病徴が著しい感染樹は伐採。
- 2 傷口から感染するため、防風垣や防風ネットによる風対策を行い、剪定後は傷口に癒合促進剤を塗布。
- 3 薬剤防除は、細菌性病害に効果の高い銅水和剤や抗生物質(カスガマイシン、ストレプトマイシン等)を使用。



写真1 葉の病徴(Psa1系統)  
(褐色斑点と黄色いハロー)



写真2 枝幹部の病徴  
(褐変した樹液の漏出)



写真3 葉の病徴(Psa3系統)  
(品種等によってはハローを生じる場合もある)

# キウイフルーツかいよう病のPsa3系統の発生調査のポイント

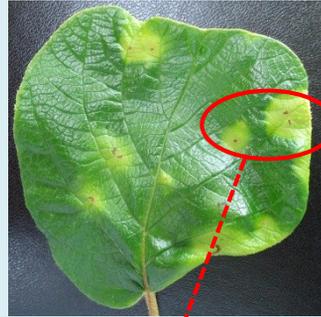
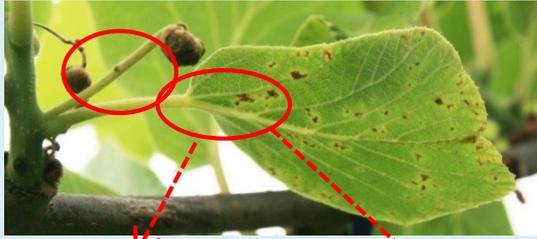
## 1. 早期発見のポイント

(写真提供: 愛媛県)

### ① 葉及び花蕾

花蕾の枯死、葉の斑点

※Psa3では葉の斑点が大きくなり、花腐細菌病に類似している場合がある



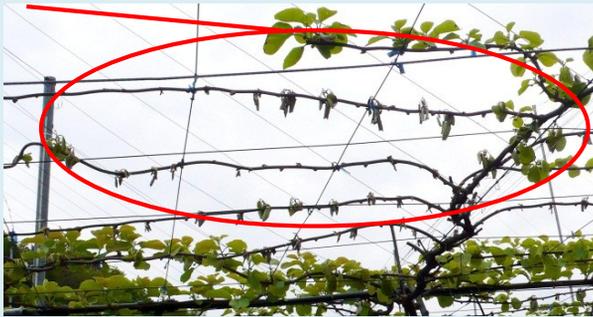
品種等によっては、ハロー(黄色のかさ)が生じる場合もある。



従来の系統(Psa1)ではハローが見られる場合が多い。

### ② 芽枯れ、枝枯れ

枝枯れ、芽枯れ



新梢の枯死



## 2. 早期発見を逃した場合

### 主枝や主幹部からの樹液漏出



樹液の漏出

